

『様々な Soft Coag の比較』

岩手医科大学附属病院 臨床工学部

伊藤 仁

当院における腹腔鏡下肝切除術は crush 法にて行われており、従来の超音波手術器を用いた手術とは異なる。鉗子により肝実質を離断して進んでいくこの手法は、使用するエネルギーデバイスが少なくなる為、医療従事者の行動同線を幅広く取れる利点がある。

しかし、超音波手術器とは違い、crush 時に脈管を挟んで損傷する可能性があり、強い止血力を持ったデバイスが必要であり IO 電極と Soft Coag は欠かせない。肝切除における当院の ERBE 社 VIO の設定は 100W Effect7 にて使用しているが、Effect = 電圧を上げる事は、内視鏡外科手術において容量結合等を考慮した場合危険である。

手術室内における行動同線の拡張は勿論の事、器械の出し入れの減少、拡大視効果でクリップが必要かどうかの判断ができる等の利点はあるが、手術室スタッフの利点としてエネルギーデバイスが少ないため crush 法は適切なエコーの読解力が必要でありまた、crush 時、脈管を挟んでいる感覚が無い為、損傷した場合、強い止血力を持ったデバイスが必要である。